プレスリリース

新時代における遍路受け入れ態勢の在り方
～遍路宿泊施設の現状・課題等調査～

四国アライアンス*は四国経済連合会と共同で標記の報告書を作成し、記者発表しました。

左から当研究所：村尾主任研究員、四国経済連合会：田頭事務局長、当研究所：西川所長

報告書要旨
昭和の「団体バス遍路」、平成の「マイカー遍路」と変遷する中、遍路人数は減少している。
一方、「巡礼路の歩き旅」ブームを背景に熊野古道等には多くの外国人巡礼者が訪れ、地域に経済効果が生まれている。
外国人遍路が増加する中、彼らの受入体制を整備することで、より多くの巡礼者を受け入れ、遍路文化の維持・継承と地域活性化の両立に繋げていくべきである。

■リンク先　https://www.114bank.co.jp/newsrelease/2019/pdf/news_20190618_3.pdf

*四国アライアンスとは、百十四銀行、阿波銀行、伊予銀行、四国銀行の４行が四国創生に向けて結んだ包括提携です。
この提携に基づく施策として当調査が行われ、実務担当として当研究所ほか各行系列のシンクタンクが参加しました。